

株式会社イマナガ
2018年度 CSR報告書



本報告書は、株式会社イマナガのCSR（企業の社会的責任）に関する考え方や取組みについてステークホルダー（利害関係を有する方々）の皆様にわかりやすくご報告し、ご理解いただくことを目指しています。

弊社では、このCSR報告書以外にもホームページや公益財団法人産業廃棄物処理振興財団の産廃情報ネットにてさまざまな情報を更新しております。

WEB サイト

公益財団法人産業廃棄物処理振興財団の産廃情報ネット

<http://www.sanpainet.or.jp/>

株式会社イマナガ ホームページ

<http://www.imanaga-r.co.jp/>

対象期間

2018年度（2017年8月1日～2018年7月31日）まで

対象組織

株式会社イマナガ

発行時期

2013年8月（初回）

2014年8月（2版）

2015年8月（3版）

2016年8月（4版）

2017年8月（5版）

2018年8月（6版）

【目次】

基本指針・環境方針	1
トップメッセージ	2
会社概要	3
組織体制・ISO14001：2015への取組み	4・5
CO ₂ 排出量の把握	6・7
デジタルタコグラフ設置車両の燃費	8
従業員教育（外部）	9・10
従業員教育（内部）	10・11
太陽光発電の状況	12

基本指針・環境方針

基本指針

株式会社 イマナガは、廃棄物の資源化・有効利用を継続して実行することを最終目的とし、廃棄物を適切に処理することによって環境負荷を低減し、処理技術の向上に努め、収集運搬から中間処理まで一貫したシステムによる再資源化 100%を目指し、循環型社会づくりに貢献する事業活動を行います。

環境方針

1. 当社事業活動の廃棄物の資源化・有効利用を促進するうえに於いて、気候変動の緩和及び気候変動への適応、維持可能な資源の利用の為省資源・省エネルギーを推進し、環境保護に努めます。
2. 生物多様性及び生態系の保護を維持するため、地域貢献活動への参加並びに森林認証製品等のグリーン購入を推進し、また環境影響に関しては自主基準値を設定し、汚染の予防に努めます。
3. 環境保護活動を有効なものにするために環境目標を設定し、継続的な改善を行います。
4. 環境関連の法規制、その他の要求事項を順守し、取引先、出荷先等を含めてコンプライアンスの強化を図ります。
5. 地域社会との協調を図り、情報開示とコミュニケーションに努めます。
6. この方針は社内外に開示するとともに、全従業員及び当社に係る事業者に周知します。

2017年 7月 1日
株式会社 イマナガ
代表取締役 今永 進二

トップメッセージ

2017年7月に環境方針の一部を改訂し、これまで以上に事業者として受け身ではなく、今何が必要かを明確に理解し、弊社の事業活動の特徴を生かした活動を行っていかねばならないと思っております。

法を順守することはもちろんですが、順守するためにどのような取組みをしなければならないかを自主的に考え、グループ内で知識を共有することが必要となってきます。トップダウンだけでなくボトムアップにより、従業員一人一人がお客様に満足していただけるサービスを提供できるように思っております。

産業廃棄物処理業者として、お客様のご相談にスピーディに対応するためには、日々の努力と情報収集する能力が必要です。廃棄物の種類も多種多様になってきており、処理に時間のかかる廃棄物が増加しております。弊社は中間処理業者としての立場にあり、排出事業者様から排出された廃棄物を、最終処分業者様が処分しやすいように中間処理を行っておりますが、単一ではない廃棄物が多くを占め、施設に投入する前の処理は人手を頼らざるを得ない状況です。

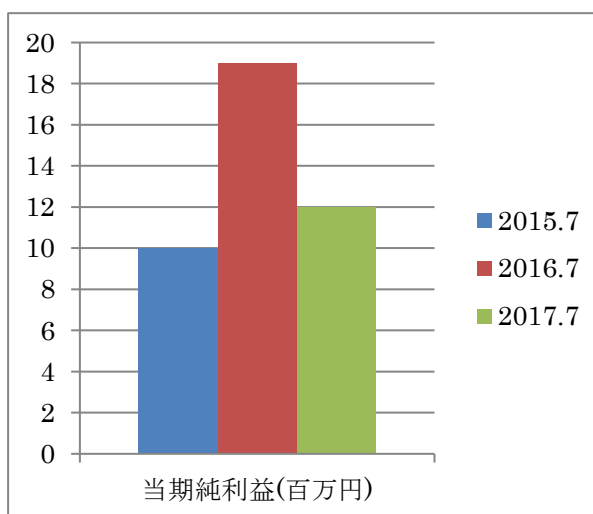
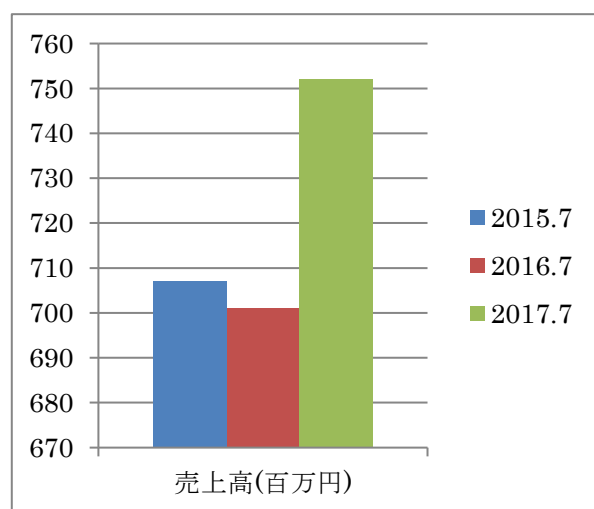
又、収集運搬業者として、効率的な車両の運転を行い安全に配慮することが重要になっております。一瞬の不注意が与える事故の恐ろしさを、映像を通じて従業員に伝えどのような時に事故を起こしやすいのかを教育しています。

今期は、地球温暖化による異常気象が多く、高温・多雨で台風発生の多い年でもあります。今夏は北九州でも熱中症指数の高い日が多く、熱中症対策の為「空調服」を購入しました。作業の内容によっては使用できないこともあるので、「クールベスト」も購入し併用しました。廃棄物の処理は人的なものが大きく、従業員の安全に配慮することが最も大きな課題となりました。この地球温暖化は全世界的な問題となっており、人為的な温暖化と自然要因の地表温度上昇との相乗効果によるものと言われており、企業として省資源・省エネルギーを推進し、事業活動を通じ環境保護に貢献いたします。

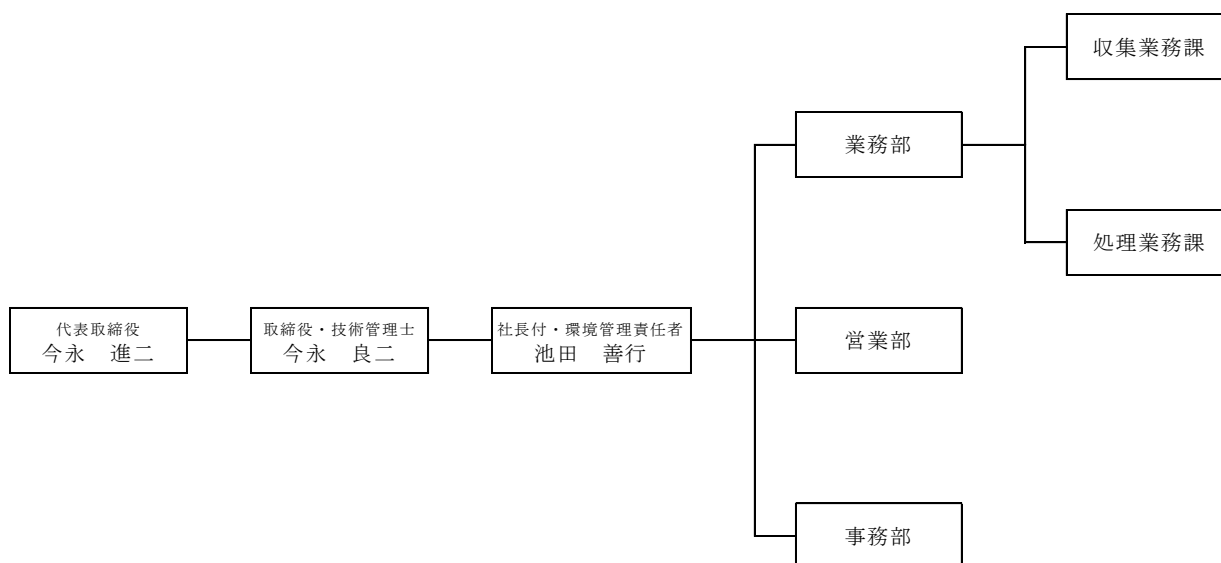
会社概要

商号	株式会社イマナガ
所在地	〒800-0115 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 2 号 TEL093-481-5097 FAX093-481-5098 Mail : info@imanaga-r.co.jp
代表者名	代表取締役 今永進二
役員	取締役 今永良二 監査役 今永洋子
従業員数	43 名
工場所在地	本社工場・第一工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 2 号 第二工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 1 号 MR 工場・MR 第二工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 41 番
資本金	50,000,000 円
ISO14001 認証番号	JQA EM-1520 (2001 年 4 月 13 日登録)
取引銀行	福岡銀行 門司駅前支店 北九州銀行 門司支店

売上高と当期純利益の 3 年間の推移



株式会社イマナガ組織体制 (2017年8月1日改訂)



ISO14001 : 2004 による環境への負荷低減の取り組み(2001年4月13日登録)

期間	重点目標
～2003. 7. 31	廃棄物のマテリアルリサイクル推進、各燃料の効率的使用のためのデータ作成・自主基準値作成
2001. 8. 1～2002. 7. 31	各データ収集により把握した基準値をもとに目標値を決定し、有効的なマテリアルリサイクルを推進
2002. 8. 1～2003. 7. 31	廃棄物のマテリアルリサイクルは目標値を大きく超え、設備の導入や分別精度にも展開
2003. 8. 1～2006. 7. 31	電気の効率的な使用、燃料の効率的な使用、紙の有効利用
2006. 8. 1～2009. 7. 31	廃プラスチック類のマテリアルリサイクル推進・各種燃料使用料の低減、労働者の安全衛生確保、グリーン購入法推進
2009. 8. 1～2012. 7. 31	廃棄物のマテリアルリサイクル推進、顧客先管理台帳による一元化(契約書、収集運搬、処理)、従業員のリスクアセスメントへの取り組み
2012. 8. 1～2015. 7. 31	前期までの取組を継続 従業員一人一人の教育による意識の改革と視覚教材を使用した教育訓練
2015. 8. 1～2017. 7. 31	G マーク取得に向けての取組み等(初回の更新申請中) ISO14001 : 2015 規格改定に向けての取組み

ISO14001:2015 へ規格改定

期間	重点目標
2017. 8. 1～2018. 7. 31	2018. 3. 23 ISO14001:2015 に規格改訂 2017. 12. 14 Gマーク更新 (2018. 1. 1. ～2020. 12. 31 迄)

現在までの取組からの変更点

2018年3月の監査によりISO14001:2015年版へ改定を行いました。新規格の内容把握のため対比表を作成し、言葉の意味するものを理解できるようにしました。これまでのように、環境方針に基づいてシステムを構築し運用し、評価して改定し順守事項を増やしていくことだけではなく、取組みにより企業の優位性がどのように変化していくのかと言う事が重要になっていくのではないのでしょうか。

現在までの取組により確立したもの

これまでの取組により、法を順守するためにどのような教育を行うのかという前提で、手順書を作成していますが、ただ教育を受けるだけではなくこの手順書に不足している情報や、作業の無駄はないのかという疑問や、ここを改善するともっと効率的だという提案が自然に生まれてくるような取組みができるようになれば、企業として一歩前に進むことが出来ると思っています。ISOに取組んでから書類を作成するという力についてはついてきていると思います。いろいろな情報を的確に収集することもできるようになってきました。必要な設備もどんどん設置していますが、従業員から発信することが少ないのが実情です。いろいろな意見を出してもらい従業員の為のISOに取り組んでいきたいと思っています。

車両等は排ガスレベルの改善を目指しており、新車の購入だけでなく、「ドライビングパートナー」により指導書が運転手ごとに印刷できるようになっており、指導書を確認しながら教育を行っています。

地域社会との交流活動

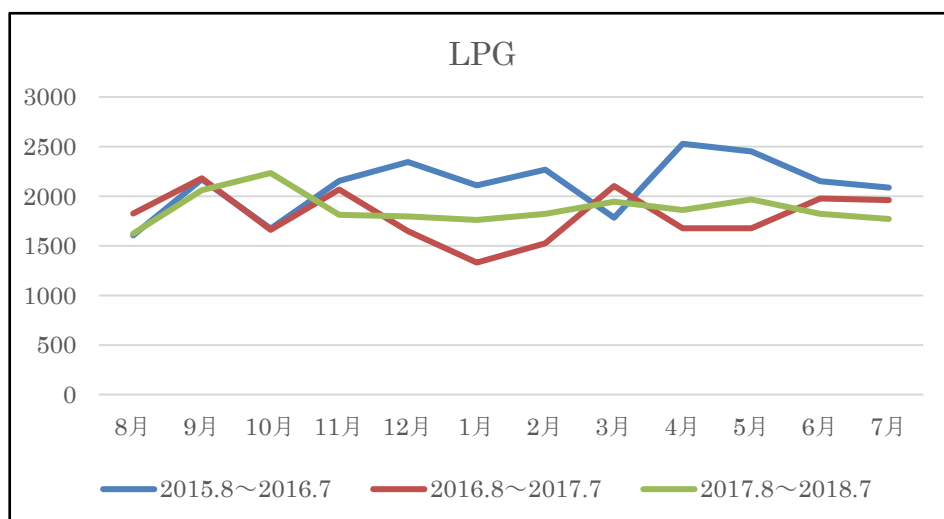
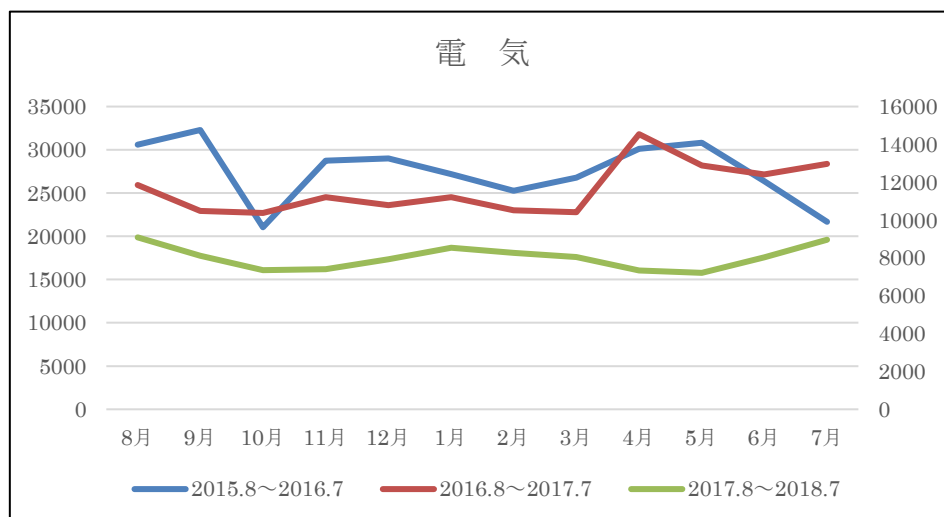
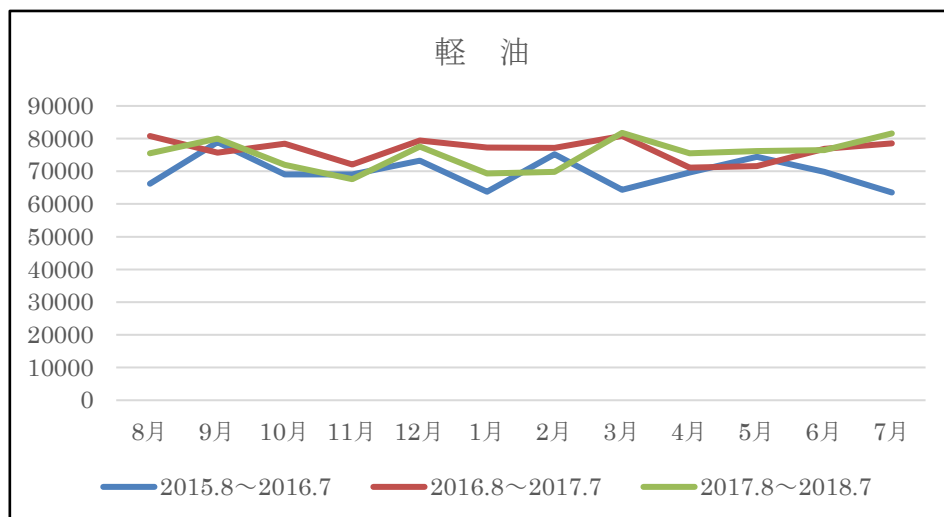
会社周辺の清掃作業（3回/年）を行っています。

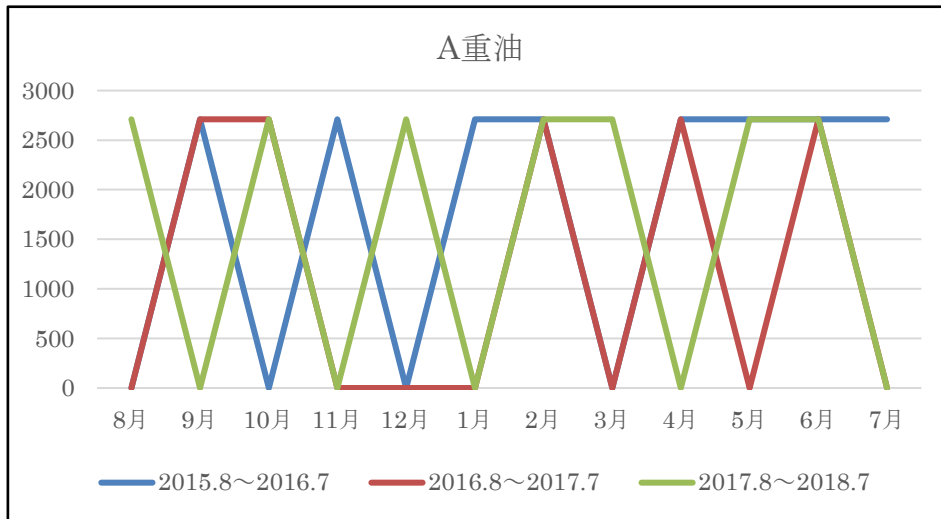


2018年の北九州マラソンの応募は、事業繁忙の為取りやめました。

会社内で使用する燃料についてのCO₂排出量の把握

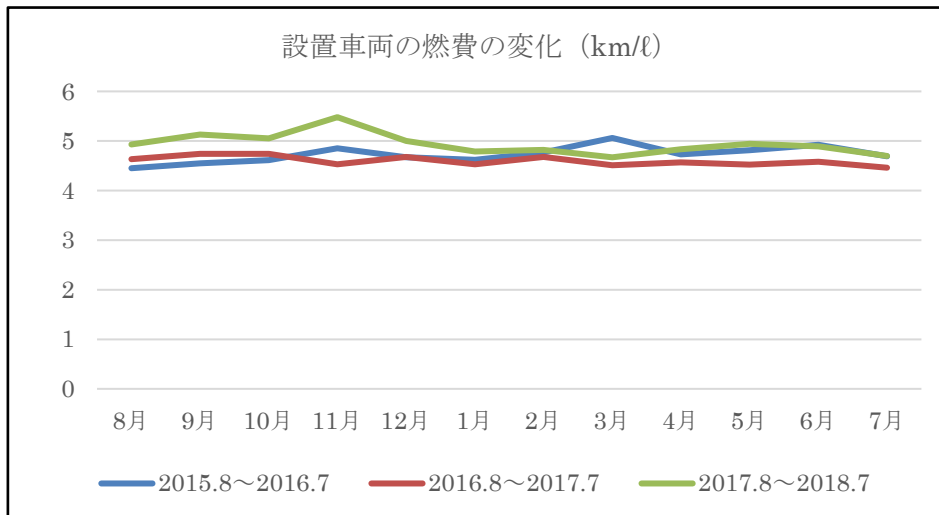
※単位はすべて kg/CO₂ です





※環境省の温室効果ガス排出量計算のための算定式及び排出係数一覧表による

デジタルタコグラフ設置車両の燃費（39台）



デジタルタコグラフ設置後の車両について

現在 39 台の車両にデジタコを設置しています。ISO の目標で「安全エコ運転全員 90 点以上」を目標に頑張っています。「ドライビングパートナー」の活用により 90 点以下の運転手については指導書により教育を行っております。2018 年は 5 月中旬より気温が高くなったので、エアコン使用により燃費が下がっています。8 月からも大幅な気温の上昇がありましたので、次期は燃費が下がるのではないかと考えております。

この「ドライビングパートナー」には、急ハンドルや急加速を行ったときに自動で映像を撮る機能がついているので、どのような状況で急ハンドルや急加速をしたのかを確認できるようになっており、その部分を抜き出して教育の資料としています。

また、事故の際など自動車のブレーキランプやウインカーの状況等も把握できるので、資料として役立っています。

独立行政法人自動車事故対策機構 (N A S V A) の運転者適性診断を今年も行いました。自社内のパソコンで受診できるので、時間を気にせず運転者全員の診断を行いました。運転手の性格、運転態度、認知・処理機能、視覚機能などについて、心理及び生理の両面から個人の特徴を把握し、安全運転に役立つアドバイスを記載した適性診断票が発行され、自分の運転を見直すきっかけになっています。

新門司地区は工業地域ですが、道路を挟んで住宅地があります。優しい運転を心掛け、地域の方とコミュニケーションを図りながら、事業を行っていくことが大切です。運行の際は基本的に県道 25 号線を通行するようにしています。

従業員教育

外部教育（2017 月年 8 月から 2018 年 7 月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2017. 8. 2	顧客先入門講習	2 名
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	1 名
9. 4	女性と子どもの安全みまもり企業研修	1 名
9. 5	有機溶剤作業主任者技能講習	1 名
9. 7	運行管理者一般講習	1 名
9. 12	副安全運転管理者講習	2 名
10. 4	計量証明事業者主任計量者講習会	1 名
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	1 名
10. 12	小型車両系建設機械特殊教育講習	1 名
10. 19	安全運転管理者講習	1 名
10. 23	小型車両系建設機械特殊教育講習	1 名
10. 27	小型車両系建設機械特殊教育講習	1 名
10. 30	福岡県産業廃棄物処理業者講習会	1 名
11. 20	有機溶剤作業主任者技能講習	1 名
11. 22	公正採用選考人人権啓発推進員研修	1 名
12. 6	顧客先入門講習	4 名
12. 8	顧客先入門講習	4 名
2018. 1. 23	身近な危険に見える化！目指せ！ゼロ災研修会	1 名
2. 8	北九州市産業廃棄物 3 R 適性処理推進講習	1 名
2. 13	顧客先入門講習	1 名
2. 19	顧客先入門講習	2 名
2. 22	顧客先入門講習	2 名
2. 24	貨物・運行管理者試験対策講座	1 名
2. 26	福岡県産業廃棄物協会北九州支部防災研修	1 名
3. 1	顧客先入門講習	1 名
3. 5	顧客先入門講習	1 名
3. 6	倉庫管理主任者講習	1 名
	顧客先入門講習	1 名
2018. 3. 7	顧客先入門講習	1 名
3. 8	顧客先入門講習	2 名

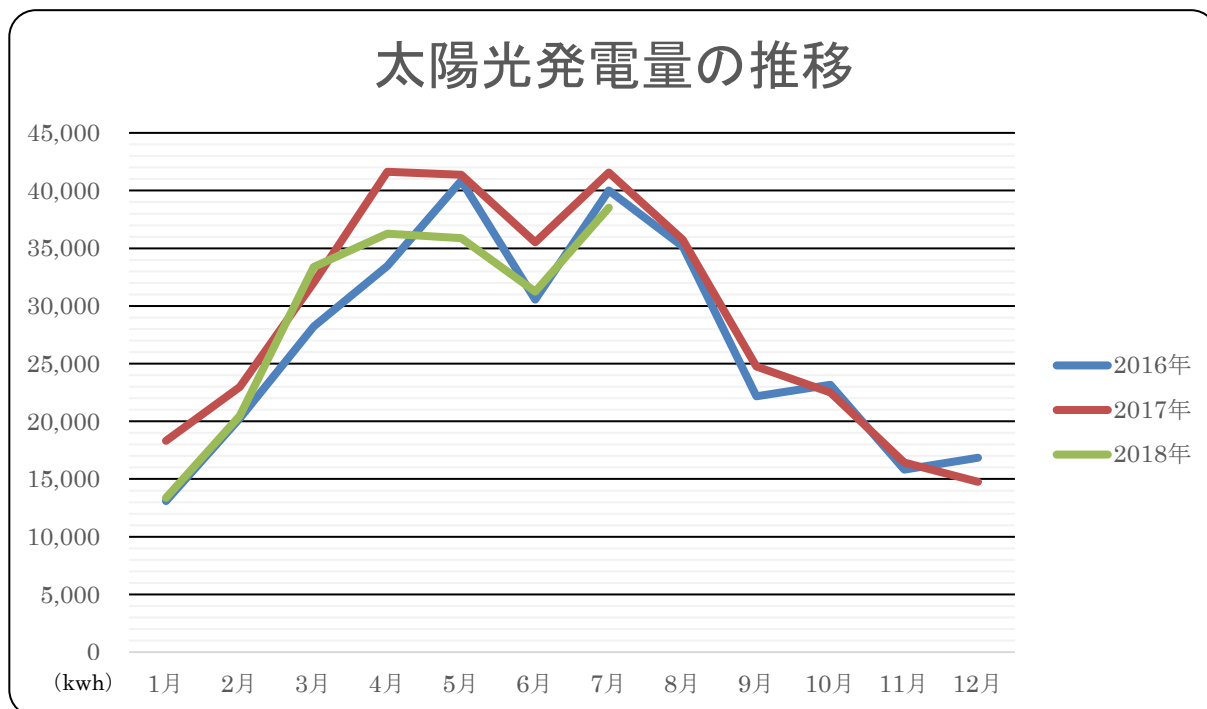
外部教育（2017年8月から2018年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
3.9	顧客先入門講習	1名
3.12	顧客先入門講習	2名
3.13	顧客先入門講習	1名
3.15	顧客先入門講習	2名
3.19	顧客先入門講習	2名
3.23	顧客先入門講習	1名
3.29	顧客先入門講習	1名
4.11	顧客先入門講習	2名
4.12	顧客先入門講習	2名
4.19	顧客先入門講習	2名
4.23	顧客先入門講習	3名
4.26	顧客先入門講習	2名
4.27	顧客先入門講習	2名
5.28	廃棄物処理施設技術管理者講習	1名
6.20	顧客先入門講習	1名

内部教育（2017年8月から2018年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2017.8.21	雇い入れ時の教育(就業規則・安全教育)	1名
8.22	施設運転管理手順書による教育	1名
	フォークリフト運転操作に関する教育	1名
8.31	熱中症の予防・対策教育、AED操作方法指導	20名
9.7	施設運転管理手順による教育	1名
9.15	車両作業手順の確認教育	20名
9.30	施設運転管理手順による教育	1名
10.2	雇い入れ時の教育(就業規則・安全教育)	1名
	フォークリフト運転操作に関する教育	1名
	重機を使用する処理業務に関する教育	1名
	施設搬入時の選別方法の教育	1名

内部教育（2017年8月から2018年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2017. 10. 7	処分先搬入条件の教育	12名
10. 12	車両事故による再教育	1名
	デジタコ指導書による教育	1名
10. 14	顧客先での荷卸し方法の教育	14名
10. 28	重機を使用する処理業務に関する教育	1名
10. 31	デジタコ指導書による教育	2名
11. 3	重機を使用する処理業務に関する教育	1名
11. 6	重機を使用する処理業務に関する教育	1名
11. 7	施設運転管理手順書による教育	1名
12. 1	雇い入れ時の教育(就業規則・安全教育)	1名
12. 7	ヒヤリハット・危険予知講習	11名
12. 21	車両作業手順の確認教育	15名
2018. 1. 19	環境に関する知識書回覧	38名
1. 20	緊急時対応手順による避難訓練	18名
	ヒヤリハット映像から学ぶ事故防止と道路交通法	34名
	顧客先環境教育実施	10名
2. 1	マニフェスト管理手順による教育	1名
2. 23	車両事故による再教育	1名
3. 12	施設運転管理手順の改訂に伴う教育	9名
3. 27	車両運転時のマナー違反による再教育	1名
5. 16	顧客先環境方針の周知及び遵守事項の確認	16名
6. 21	顧客先環境活動の周知	18名
6. 22	顧客先場内運行のルール遵守の周知	18名

太陽光発電（イマナガ発電所）の状況

発電出力 306.0kW



太陽光発電について

弊社は、再生可能エネルギーとして太陽光発電を選択いたしました。2013年より順調に稼働し、新制度の事業計画を2017年4月に再度申請し5月末に受理されました。

今年は設置して5年目の点検を行いました。不良個所が数か所あり点検と同時に交換をしています。4月・5月の発電量が低くなっているのは、雨が少なくパネルの汚れが落ちないため発電効率が落ちたためと思われます。7月は初旬の豪雨により、パネルが少しきれいになり発電量が例年並みとなっています。

